

公債費負担適正化計画の検証について

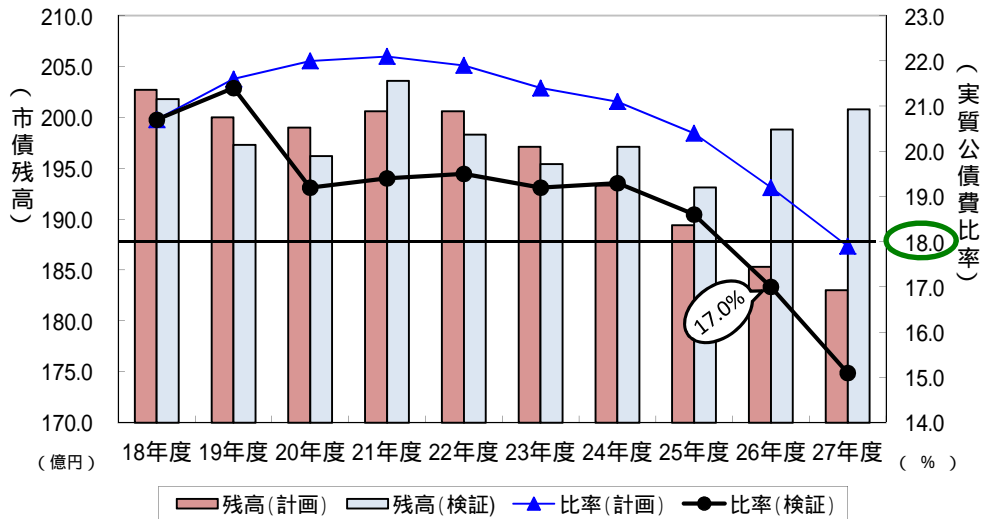
実質公債費比率目標達成

牧之原市は、収入に対する負債の返済の程度を示す“実質公債費比率”が県内自治体で最も高く、厳しい財政状況であるため、平成18年度に「公債費負担適正化計画」を策定し、財政健全化に取り組んできました。計画の内容は、起債額（借金）を抑制することなどにより、計画の10年目に当たる平成27年度までに、実質公債費比率を18%未満にするというものです。

今回、確定した平成25年度決算では、実質公債費比率は前年度より1.6ポイント低下して**17.0%**となり、計画を1年前倒して達成することができました。

実質公債費比率は、今後も低下を続け5年以内に**10%**以下になると見込んでいます。

1 市債残高と実質公債費比率の推移



実質公債費比率は、当年度を含めず前3年の平均である。

2 1年前倒して計画を達成できた理由

- (1) 地方債について、事業の選択と集中を通じて、合併特例債などの交付税算入率の高い、有利な制度に限定した借入をしてきたこと。
- (2) 職員数の削減、補助金の見直しなどの行政改革を通じた経費削減などで財源を生み出し、臨時財政対策債の借入額を借入可能額以下に抑えてきたこと。

3 実質公債費比率の状況

(単位：%)

年 度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	
単年度	計画	22.0	22.6	21.7	21.4	21.1	20.8	19.4	17.4	17.0	15.0
	検証	19.5	19.9	18.7	20.0	19.0	18.9	17.8	14.3	13.3	10.4
前3年の平均	計画	20.7	21.6	22.0	22.1	21.9	21.4	21.1	20.4	19.2	17.9
	検証	20.7	21.4	19.2	19.4	19.5	19.2	19.3	18.6	17.0	15.1

19年度決算より都市計画税が控除財源として算入された。